

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開所以降「誠心」という理念で、介護を心掛けていたが、今年新たに「住み慣れた町中で、お互いに助け合い、その人らしくを大切に、心安らぐ生活を提供いたします。」という理念を職員全員で考え、追加した。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、申し送り後に、勤務者全員で唱和している。また、細かい所は、日々の業務内、ミーティングなどでも常に話している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念の「住み慣れた町中、お互いに・・・」という所は、納涼祭やクリスマス会など地域の方とのコミュニケーションの場で話させてもらっているが、機会を増すごとに、少しずつではあるが、事業所の理解も深まりつつある。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の散歩時に声をかけたり、かけられたりするようになった。行事に参加された方と親しく挨拶ができるようになった。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に入会し、自治会単位の運動会や文化祭、お祭りに関し、事前に情報や案内をいただけるようになった。主に見学くらいで、参加にまでは至っていません。交流の場はホーム主体の行事が多い。子供たちとの交流は、主に中学生の職場体験や職員の子供が来た時位である。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年に1回は自治会(老人会)に向けて、事業主医師に健康の話についての講演依頼がある。その時手作りおやつ(喫茶)を提供して喜ばれる。	○	散歩時の付き添い、ボランティアなど提案させてもらっているが、具体的実施に結びつけたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設の向上に生かすため、ミーティングや勉強会で検討議題になっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告を行い、それに伴う問題点についての意見とかアドバイスを毎回いただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に行く機会があれば、グループホーム担当者と内部の情報、問題点を聞いてもらったり、アドバイスをいただくことも度々ある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会では、まだ話をしたことがない。入居者、その家族にも情報提供した事はまだない。10月に、入居者の孫に成年後見制度を説明すると、もう少し時期を待つとの返事だった。	○	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	詳しい内容の勉強会はしていないが、マニュアルや資料などには必ず目を通してもらうようにしている。	○	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退所に関して、その都度利用者や家族の不安や疑問に対し、説明するようにはしている。ただ、今までの現状をみると、慌しく入所がおわり、説明全てが伝わっているかどうか疑問である。</p> <p>家族の方も荷物のこととかが気になり、契約書の内容まで意識されていないのが現状のようだ。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>必要ならば、施設関係者、院長など関係者を交えて、カンファレンスはしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1か月に一度、写真とともに日常生活の様子などを書いた一筆箋を添え、郵送している。また、体調不良や大切な事柄は、電話や来訪時、必ず報告している。</p>	○ 金銭管理については月1回、サインをいただくようになっている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けているが、それ以上のことは特にしていない。意見箱の設置や家族会、運営推進会議の機会もあるが、家族から申し出やの意見はほとんどない。</p>	○ 家族同士が意見や苦情を、気兼ねなく話し合える環境づくりは必要だと考えている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>不満や苦情は言いにくい部分も多いかと思う。把握しきれないところもあると思う。介護職員としての仕事に対する意見と言えない意見があり、自分の損得に関する意見も多い。(あくまで利用者さん中心に対応したい。)</p>	○ 直接介護に関係のない意見は聞く必要がない。職員が自由勝手な職場と勘違いしているのが見えかけている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ニーズに合わせたローテーションづくりは常に検討しており、その都度対応している。そのため、業務内容の変更もよくある。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者へ悪影響を与える職員は、早く替わりの人をかまえないと思うし、利用者への配慮には細心の注意を払っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの人数上、思うように行けていないが、機会があれば研修を受けてもらえるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム施設への研修実施(全ての職員対象)、また相互評価事業への参加を実施している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心がけてはいるが難しく、ストレスのもとになっている。介護内容や勤務体制、休暇が思うように取れないなどが原因となっているのは把握している。ミーティングなどで少しずつは良い方向になるよう、提案しているつもりだが、これからも継続していくしかない。話す機会をもち努力すれども、相手にその気がなければムダに等しい。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が良くしてくれていると、評価してくれているが、本人まで届いているかはわからない。また、やりがいや向上心が持てるような状態かと言われれば、そうではないと思う。考えていきたい。個人のモチベーションにより、施設内がふりまわされることも多々ある。少人数であるだけに、一人ひとりが大切であり、現状は難しい。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に訪問し、顔を覚えてもらったりと、ケアマネジャーが情報収集と共に対応してくれている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、特に入居後すぐにも、電話連絡などをこまめに行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのサービス利用状況や、家族の苦労など経緯についてはよく聞くようにしている。どのような対応ができるかを事前に話し合いをしてのサービスとなる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までに時間をかけての入所(併設のデイサービス→グループホーム入所)ではなく、いきなり入所は家族希望が多く入所してからのサービスでの試行錯誤が多かった。	○	本人や家族が来所が可能な方には、入所前に見学してもらっていた。また、来所できない方については、必ず入所前に何度か本人・家族に会いに行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場、家という概念を強く持ち、その人の意見を尊重している。 利用者の得意とするもの、経験を活かしたことを行う時などの場面づくりは大事にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や体調などの情報交換は常にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方の面会時には、スタッフ、家族、本人三者の関わりを大切にし、一緒に会話を持てるようにしている。その中で、家族、本人からの訴えや要望を聞くようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時や入所後も馴染みの物の持ち込みや状況設定を継続して行えるよう、環境づくりの情報提供や設定はお願いしている。外出、ドライブにて、利用者の方が住んでいた近所またはよく行っていた場所などを訪れたりもしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係がうまくいくよう、声かけをしたり環境を整えたり、席替えなどを調整している。また、集団レクリエーションを取り入れ、入所者が一緒に集まる時間をとっている。レクリエーション内容も、お互い助け合う、声をかけあうなどを取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移った方へは面会に行ったりしてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけ、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族等から情報を得るようにしている。個人記録への記入、申し送りにより、情報を共有している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの発言や、家族、知人の面会時などにも折に触れ、少しずつ把握に努めている。個人ケースファイルにより、全スタッフが把握に努めている。すぐに確認できる場所に置いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	体調、バイタルサイン、表情、行動、食事量や排便の有無、発言などを朝夕2回の申し送りで報告し、日々のケアにつなげていく様、心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、申し送りやカンファレンスで話し合っていることもケアプラン作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前にモニタリング、アセスメント、カンファレンスを行い、状態が変われば、検討、見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し、継続した情報の共有を全ての職員ができるようにしている。また、毎日、担当職員がモニタリングすることで、介護計画の目標を確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医を母体であるクリニックに替えたいという家族の要望により、家族も安心して暮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防避難訓練を実施している。他、地域資源の利用は今のところはほとんどしていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行きつけの美容室がある人以外は、本人・家族の希望により、訪問理・美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に毎回、地域包括支援センターの職員の参加があり、介護支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望しているかかりつけ医となっている。受診や通院は基本的には家族にお願いしているが、必要ならば、代行もしくは、同行するようにしている。利用契約時に説明し、同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設内での対応、指示や助言をもらえるよう、家族と一緒に通院介助するようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	これまでクリニックの看護師が色々な相談にのってくれたり、場合によったら、指導してくれたりしていた。H20年12月1日より開始する医療連携体制により、より一層日常の健康管理ができるものと思う。	○	12月1日より看護師が非常勤で勤務し、記録ノートを作成し、利用者の日常健康管理をする。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはスタッフが見舞うようにしている。また、情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	たとえ医療の治療が必要な方、老衰により寝たきりになられた方など 家族、本人、スタッフ、主治医がカンファレンスを行い、その方が最も良い方法をとるということを常に話し合い共有している。新たに「医療連携体制について」の説明を作成し、書面で交付し、同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当施設は1ユニットで、夜間時スタッフ1人が9人の入居者の世話をしているため、力量に限界がある。看護師が24時間連絡のとれる、完全な医療連携体制がとれるように準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活が継続できるよう、生活環境支援の内容、注意が必要な点など、情報提供し、連携をとるよう心がけている。家族には、本人の現状を説明し、次の居場所となる施設にも見学に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前での介護や誘導の声かけ、プライバシーの配慮を心がけ、日々スタッフ同士が気を付けるよう、意識づけしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できるようにする選択肢の提案がまだ少ない。まだまだ職員で決めたことが多いが、自分で決めて行く外出もかなり多くなってきた。	○ 環境の整備や人員、スタッフの意識付けを強化していけば、増えると思うので、早急に対応する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の体調や気分によって対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整髪行為の促し、衣類の自己選択支援をしている。美容室に関しては、金銭的なこともあり、皆、当施設が頼んでいる所で済まされる方が多い。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ一同が入居者の嗜好を把握している。入居者も調理の手伝い、後片付けなど自分にできることを積極的にしてくれる。その中での会話も大事にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物に関しては、個々にではなく、同じ物を提供している。ただし、家族からの持ち込みや、個々に買い物などで買った物に関しては、個人で楽しめるようにしている。食事制限がある人が多いが、その中で、できる限り楽しめるよう努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣、体調などから排泄に関する申し送りを毎日している。また、排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルサインチェック後、2日に1回のペースで入浴できている。 入浴順に関しては、本人の希望を取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日を通して、個々のパターンや希望に合わせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な物、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。(農園での作業や裁縫)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者とはいえないが、できる人に関しては、時々買い物と一緒にいき、楽しみやストレス発散をしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日に一度は外の空気、景色を味わってもらうため、毎日の日課として、散歩を取り入れている。場所の選択もしてもらっている。また、週に一度(日曜日)はドライブに行ったり、季節ごとに花見に出かけたり、楽しい時間を過ごせている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別支援もようやく始まりかけたところである。近場等には対応できるが、遠方は家族の協力がないと難しい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけて話してもらう。また、入居者によっては携帯電話を持っていたり、かかってきた電話を代わったりして、家族と会話ができるよう努力している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際には、施設内の希望する場所を提供し、お茶を飲みながら自由な時間を過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作り、常に学習している。また、日々の申し送りなどで、ケアを振り返り、身体拘束が行われていないか検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、通るとチャイムが鳴ることで安全に配慮している。外出しそうな様子を察すれば、一緒について行ったり、さりげなく声かけし、安全に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、職員は分散し、常に入居者の様子と位置がわかるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同の場で使用する洗剤などは、保管場所を決め、場から離れる時には、鍵をかけたりして対応している。見守りなどで対応可能な物や状況があれば、必要な物は使用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルをつくり、提示しているが、熟知しているかと言えば、少し問題である。事故発生後、報告書やヒヤリハットの記録をすることにより、職員の問題共有を図っている。予測される危険については検討し、事故を未然に防ぐために対応を考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の防災訓練などで消防の方に色々なアドバイスを受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練で避難経路の確認をしている。また、運営推進会議などでは、地域の方への協力もお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	考えられるリスクに対しては、状態、状況の報告などを常に行っているの、家族には理解を得ている。	○	できる限り自由で抑圧感のない暮らしを考えていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや記録などで、必ず把握、対応できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当職員をおき、薬について各々の情報をわかりやすく、見やすいようにまとめ、変更のあった場合の周知は必ず全員にしている。服薬に関しても、チェック表に記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の時間を、食事、おやつ以外にも設定し、また、オリゴ糖やヨーグルト、くだものは毎日とってもらい、薬に頼らず、排泄できるように支援している。また、体操や散歩による運動も実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きは、声かけでできている。できない部分への介助はもちろん行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や内容までまったく違うものは提供したことがないが、状態が悪ければ医師、栄養士と相談し、指示をもらうようにしている。また、介護の方では、形態やメニューなどでできることがあれば、支援している。また、水分量については、リビングに急須を置いたり、夜間にペットボトルを個別に置いたりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルをつくり、把握してもらっているようにはしている。指導があれば、職員全員が把握できるよう、ミーティングなどで話し合っている。食事はその都度調理を行い、作り置きのないようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	熱湯消毒や食器洗浄器のヒーターなどで熱処理は必ずしている。冷蔵庫や調理器具の除菌にも心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーで入りやすくしている。また、季節の花などで家庭的な雰囲気に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雰囲気に合った有線の音楽をかけたり、カーテンや照明で明るさを調節している。音楽はよくかけている。居室、廊下に季節に合ったものを掲示している。その掲示物は利用者らと一緒に作成したものである。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらもソファや椅子は決めてはいないが、離れた場所においてある物は個々で、居場所が欲しい人が使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前、入所後も家族の方には、馴染みの物が大事だと話しているが、持参品は少なく、必要最低限の物しか持ってきてもらえないのが現状である。配置は本人の使いやすい位置に設定している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節には特に気を使っている。入居者の意見を取り入れたり、各居室の温度計を活用し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の施設であるので、今までに特に大きな問題なかった。ただ、居室の家具などの配置は個々によって状態が違うので、家族に相談して福祉用具を入れてもらったり、配置を変えたり、安全な動線は常に考えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安感を訴えたり、不安な言動、行動があった場合には、安心していただけるような声かけをしている。また、居室の入り口には入居者の写真、名前など、家族の了承を得て、掲示させてもらっており、自分の居室が確認できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは狭く、出入りは自由にしてもらえていないが、季節に合った花などプランターで育てている。建物外回りはグループホーム独自では管理していないが、施設全体での共有地であり、外出する際に見たり触れたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほほ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほほ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ミーティングなどでよい方向になるよう、個々への対応であったり、散歩への支援だったり、レクリエーションを含め入居者が元気になる支援を提案し、実施内容を増やし職員一同頑張ってきた。その結果、静から動へと活動量も増え、できることが増えてきた。持病の悪化などは多少あるが、風邪などをこじらせたり、特に目立った体調不良はこの一年なく、元気で楽しく過ごしてもらっていると思う。

その日その時にある食材を上手に使用し、献立(決められた献立表はないが)にも変化があり、栄養的にも量的にも満足いく食事が提供できている。